

# 主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本 事業 体系	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	17076	学校図書館支援事業	課名	学校教育課 教育支援G
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	財	会計
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長	務	款
	施策の方向	03:子どもたちの育ちのための学びの展開	科	項
戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト	目	目	01:教育研究費
事業予定期間		H 21 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等 子どもの読書活動の推進による法律	

目的 概要	対象	市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者
	目的	児童生徒の読書量を増加させるとともに、読書の種類の幅を広げ、質を高める。児童生徒の主体的な情報活用能力を高めるとともに、児童生徒に家庭での読書習慣を定着させる。
概要	学校図書館情報システムを活用し、市立図書館・学校図書館のネットワーク化を図るとともに、全小中学校への学校司書の配置や学校図書館活用アドバイザーの派遣により、図書館環境整備と学校図書館を活用した授業を推進する。また、家庭での読書環境充実を図るため、幼稚園及び小学校でファミリー読書リレーを実施する。読書習慣の定着および読書の質を高めるため、読書チャレンジの冊子を配付する。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	年度計画	学校図書館情報システム管理・更新 学校司書の配置 学校図書館活用アドバイザーの派遣 かめやましファミリー読書リレーの実施 かめやま読書チャレンジの配付	学校図書館情報システム管理 学校司書の配置 学校図書館活用アドバイザーの派遣 かめやましファミリー読書リレーの実施 かめやま読書チャレンジの配付	学校図書館情報システム管理 学校司書の配置 学校図書館活用アドバイザーの派遣 かめやましファミリー読書リレーの実施 かめやま読書チャレンジの配付	
	年度実績	○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置(小学校11校中学校3校)中:亀山・中部・関(週2回)小:川崎・井田川・東・西・関(週2日)他校(週1日) ○学校図書館活用アドバイザー年間168日、1日あたり4時間派遣 ○かめやましファミリー読書リレー年間10週実施。市内幼稚園小学校で601家族が参加			
事業の計画・実績	計画額	事業費	22,400千円	13,000千円	13,000千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	22,400千円	13,000千円	13,000千円	
	予算額	事業費	19,450千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
その他					
一般財源	19,450千円	0千円	0千円		
決算額	事業費	19,000千円			
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
一般財源	19,000千円	0千円	0千円		
人件費	総人件費	785千円	0千円	0千円	
	一般職員	785千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.10			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト( + )		19,785千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
指標	名称	学校図書館を活用し、月5回以上授業を実施した学校数	計画値	12	13	14
			実績値	14		
			単位	校	校	校
	名称	児童生徒の読書数	計画値	8	9	10
		児童生徒1か月の一人当たりの図書貸出冊数	実績値	8		
			単位	冊	冊	冊
	名称	授業時間以外での読書状況	計画値	小73中58	小77中63	小80中65
		平日授業時間以外での読書時間「読書を全くしない」以外の子どもの割合(全国学力学習状況調査 児童生徒質問紙)	実績値	小83中60		
			単位	%	%	%

事業の改善	【前回評価の対応方針の概要を記入】 読書週間の定着をさらに進めること。また、読書の種類の幅を広げ、質を高める必要がある。
	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 家庭での読書週間の確立に向けて、「かめやましファミリー読書リレー」の継続実施をした。また、便りや図書館協議会で取組の狙いを幼稚園、小学校担当者及び保護者に啓発した。学校図書館活用アドバイザーと学校司書、図書館教育担当の連携を進め、読書週間の確立と学校図書館の活用に向けて取り組んだ。図書館協議会で学校間の活動交流や情報交換を進め、各校での取組に活かした。様々な種類の本に親しむために、亀山読書チャレンジの取組を始めた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 学校図書館情報システムは、令和元年10月より、新システムの導入を行った。学校司書の配置充実により、図書館教育担当教員と連携した読書指導、図書館活用指導、図書の選定、収集等が行えた。また、学校図書館活用アドバイザーによる授業を計画的に行ったり、図書館を活用した授業づくりについて提案したりした。4幼稚園、11小学校の年間計画に「かめやましファミリー読書リレー」を位置づけ、年間10週程度実施した。今年度より、4幼稚園、11小学校で「かめやまし読書チャレンジ」の取組を始めた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 新システム導入により更に貸出業務や統計処理等が円滑に行えるようになった。学校司書の配置が複数学級の学校にはすべて週2回の配置となっており、専門職としての力を発揮し、子どもたちへの支援を行うことができた。また、学校図書館活用アドバイザーが、計画的に授業を進めることで、言語能力や情報活用能力の育成、学校図書館を活用した授業づくりが充実した。また、野登小の文部科学大臣賞受賞にもつながった。「かめやましファミリー読書リレー」のアンケートでは、「以前に比べて、家庭で読書する時間が増えた」「以前に比べて本に興味を持つようになった」の肯定的意見70%を超え、昨年度より3%程度増えている。「かめやまし読書チャレンジ」の取組が始まり、物語、伝記等様々な分野の本を読むことにもつながった。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 学習指導要領の読書活動の位置づけについて理解し、教科等の学習における学校図書館の活用を活かす必要がある。児童の「かめやましファミリー読書リレー」や、「かめやまし読書チャレンジ」の取り組み方に差がある。	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合、その内容を記載]
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 学習指導要領の中にどのように読書活動の充実が明示されているのかを、図書館教育担当教員、司書、図書館活用アドバイザーで十分に理解した上で、今後どのように教科等の学習において学校図書館を活用していくのがよいのかを考えて取り組んでいく必要がある(特に低学年における読書活動)。「かめやましファミリー読書リレー」や、「読書チャレンジ」のねらいを通信等で保護者にも周知を図る。「かめやまし読書チャレンジ」における良い取組を図書館協議会や司書会の中で交流する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 幼稚園、小学校低学年からの読書習慣をつけることができる。教科等の学習における図書館の活用の充実につながる。	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援グループリーダー 武内 早奈美
【最終評価者】	教育委員会事務局 学校教育課長 宇野 勉

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	A	A	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		19,450 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	19,450 千円
	令和2年度への繰越額	千円